

といふものは貞元録の誤りにして、前者には此の事全く見え、貞元録に至りて始めて偽經とせられたるものなりとす、則天の朝に皇甫氏某が之を偽作せりとのことは、何に出でたるかを知らずと雖、開元録の偽經録中に之が見えざるよりして考がふれば、此の説の眞偽如何あるべき、或は開元録以後、貞元録の當時迄の間に於て出でたるものに非るべきか。

此の經の偽經なることは、此の如く明らかかなりと雖、然も之が果して支那に於て作られしか、或は回鶻のものか先きなりしかに就ては、尙ほ一考を要すべし、今兩者を對比して考がふるに、其間に各々長短あり、彼に繁なるもの此に簡に、此に詳かなるもの彼に略せるものありて、俄かにその先後を定めがたきが如きも、然も熟讀すれば漢文のものが原本たることを證して餘すなし、即ち漢文のものに「人王菩薩……下爲人主作蓬民父母、順於俗人、教於俗法、造作曆日、頒下天下」と記せる文中、曆日なる語に對しては、回鶻本に *ikkir* なる語を配し、「必要な *ikkir* なる書を作りて、すべて天下に與へたり」と記せり、*ikkir* なる語は回鶻語としては如何にしても解釋すべからず、必らずこれ曆日なる語を其のまゝに音寫したるものにして、彼等の間には自からの曆書なく、偶々之あれば、摩尼教徒等の作成せしイラン文化に屬するもの（其の斷片の發見せられたるものあり）、もしくは支那のもの行はれしにすぎざるを以て、從がつて此の語を譯するにも、漢語の儘に寫したるものと見ざる可らず、其の他にも漢語の音を其の儘に寫せる例所々に存すれば此の一卷の回鶻文經典は、漢文の佛說天地八陽神呪經を翻譯せるものなること、寸毫も疑がふ可きに非ず。